'80 4
No. 94
昭和55年4月15日発行
発行 横越村役場

広報よこごし

おもな内容

1. 希望に胸はずませて (1P)
2. 昭和55年度一般会計予算 (2P)
3. 3月議会 (3P)
4. 長いあいだご苦労さま (3P)
5. 献血功労者に記念品の贈呈 (3P)
6. 高令者大学で修了式 (4P)
7. 「小林存」伝出版祝賀会開かる (4P)

シリーズ、村の特産 ⑧ いちご栽培 木津 石井満信氏

希望に胸はずませて

中学校卒業式

拍手に送られ退場する卒業生

退場後、自分達の学んだ教室の近くまで来たら感きわまり激しく泣きだした女生徒の声が印象に残った卒業式でした。

曇空の三月十四日、横越中学校において、第三十三回卒業式が行われました。この日ピンクのリボンをつけた百十八名の卒業生に対し、加藤校長は式辞の中で、「一九八〇年代は変化の激しい時代、知恵の時代と言われています。創造性に富み、正しい判断のできる、ねばり強い行動力が要求される時代と思います。みなさんは今日から、各自が選んだ道、志ざす道に向って進むわけでありますが、どこにあっても、中学校で学んだ数々のことを基礎として勉強に修養に励んで下さい」とのべられました。

次に在校生を代表して栗原利佳さんが「新たな世界へと旅立れる卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます みなさんの脳裏には今日までの数々の思い出がとどまることを知らぬように駆け巡っていることでしょう。行く手には様々な障害が待っていますしかしそれを打ち破って新たな世界へ歩み大きく飛躍していくみなさんと信じています 新しい出発に挙多かれと心よりお祈りいたします」と送辞をのべた。

卒業生を代表し遠藤雅彦君が「今日晴れの卒業式を迎えることができましたことは、何とも言いようのない喜びでいっぱいです。思えば長いようで短かかった三年間、いつも広い視野から私達を導いて下さった校長先生、時にはやさしく、時には厳しくご指導下さった先生方、本当にありがとうございました。

冬の朝いつもストーブに火を入れて下さった用務員のおじさん、毎日おいしい給食を作って下さった給食のおばさん、今まで私達を兄や姉のように思い共に歩んできてくれた在校生のみなさん、そして家庭にあってはどんな時でも私達の身の上を心配し成長を願ってここまで育ててくださったお父さん、お母さん本当にありがとうございました。

数限りなく湧きいでてくる思いはどれ一つとってみても忘れることのできないものばかりです。この素晴しい思い出を生涯心に深く刻んで私達の生きてゆく道しるべにしたいと思います」と答辞をのべた。卒業式終了後在校生や来賓、父兄の拍手に送られ卒業生が退場する、涙をこらえながら、顔に手をあてている女子生徒、じっと下をむいて歩いてくる男子生徒、いつもながらの卒業風景でした。

この子供達が、心のあたたかい、おもいやりのある、社会人として生長することを願いたいものです。

校だより

三学期の終業式をすませ、帰宅の途につく児童の会話の中に「こんどオラ達の先生は何先生だろうな？」などと話合っているのを耳にした。

四月の新年度を迎える児童達の新らたな期待のいつわざる会話の一こまである——。人事異動、転勤等も一段落して新年度に向って動きだす月だ。先生の異動に対して児童も何かしら複雑な気持をもっておると同様、父兄の皆様には又別な異動？にこれ又複雑な気持をもっておられる事と思います。それはPTAの役員選出である。「やっと卒業してもうPTAの役員をしなくていいてばね。」「良かったね、オラの所はもう二年あるからこんど、どういって断わろうかと思ってね。」「しかたがないスケもう一年やるてばネ」。等と云う話を耳にする。実際大変な事は良く分る。しかし、PTAとは本来父母と教師が協力して教育の効果を上げる事を目的とする団体で学校単位で結成した父母と先生の会である事は今さら云うまでもない事であるがなか〳〵才能、技量を持ち合わせた人でもなりたがらず出来れば何とか逃り抜けてくれゝばと思う人もいない訳ではない。しかし、児童生徒の教育効果を上げる事を目的としておるのだから、むしろ、「今度は何先生が担任だろうか？」と話し合うのも結構だがこんどはPTAの役員に対して児童の教育効果を上げる為にどの様に協力したら良いか又新年度は家庭教育や、地域活動をどの様に進めたら良いか。等を考えていただき度い。今年は三市中浦原地区PTA研究集会の会場が当村にある。これを機会にもう一度PTAの見直し、子供達の健全育成の為、地域組織的な活動をどの様に進めたら良いかを考えていきたい。（山崎）